

m | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15

始



塩竈詣

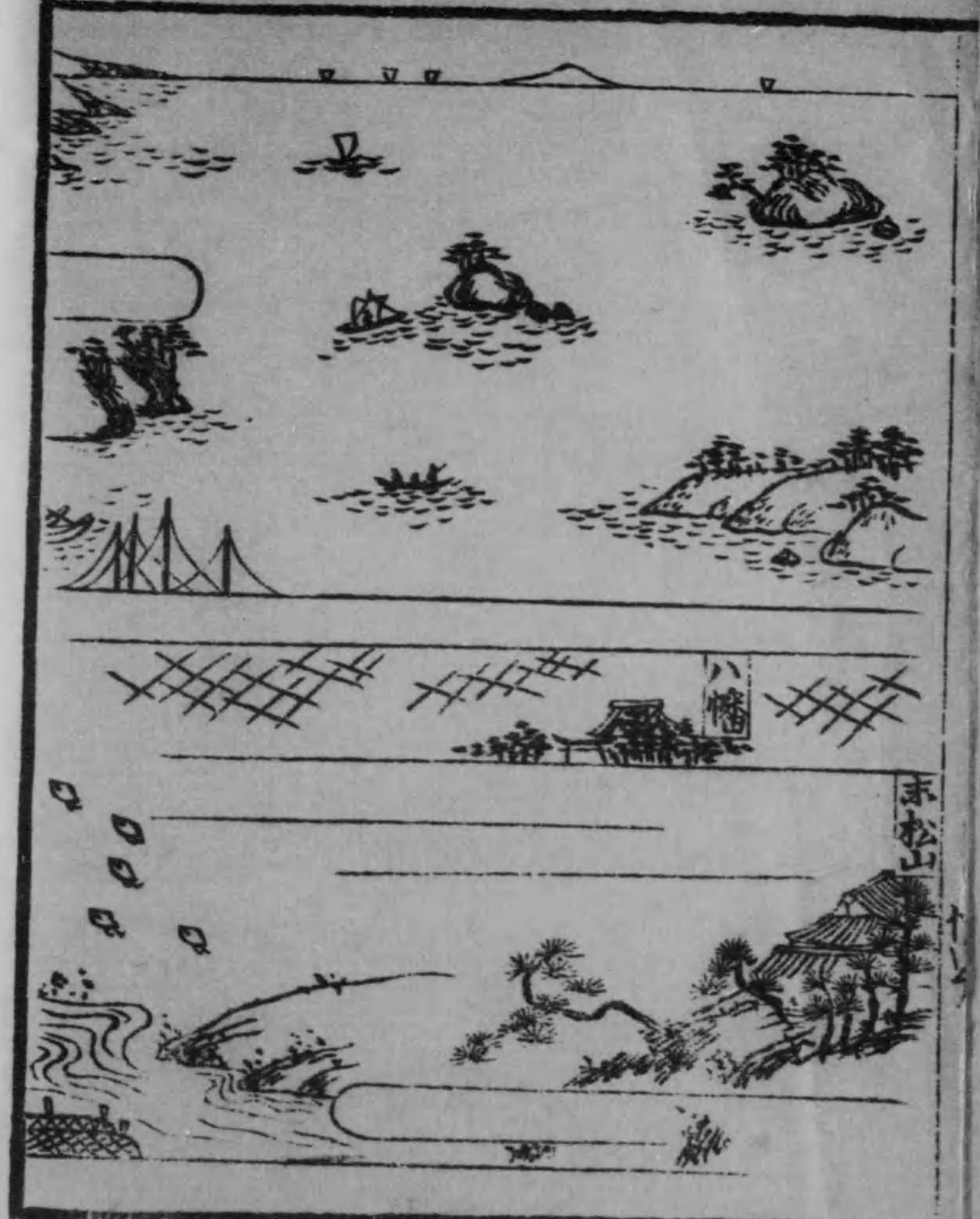
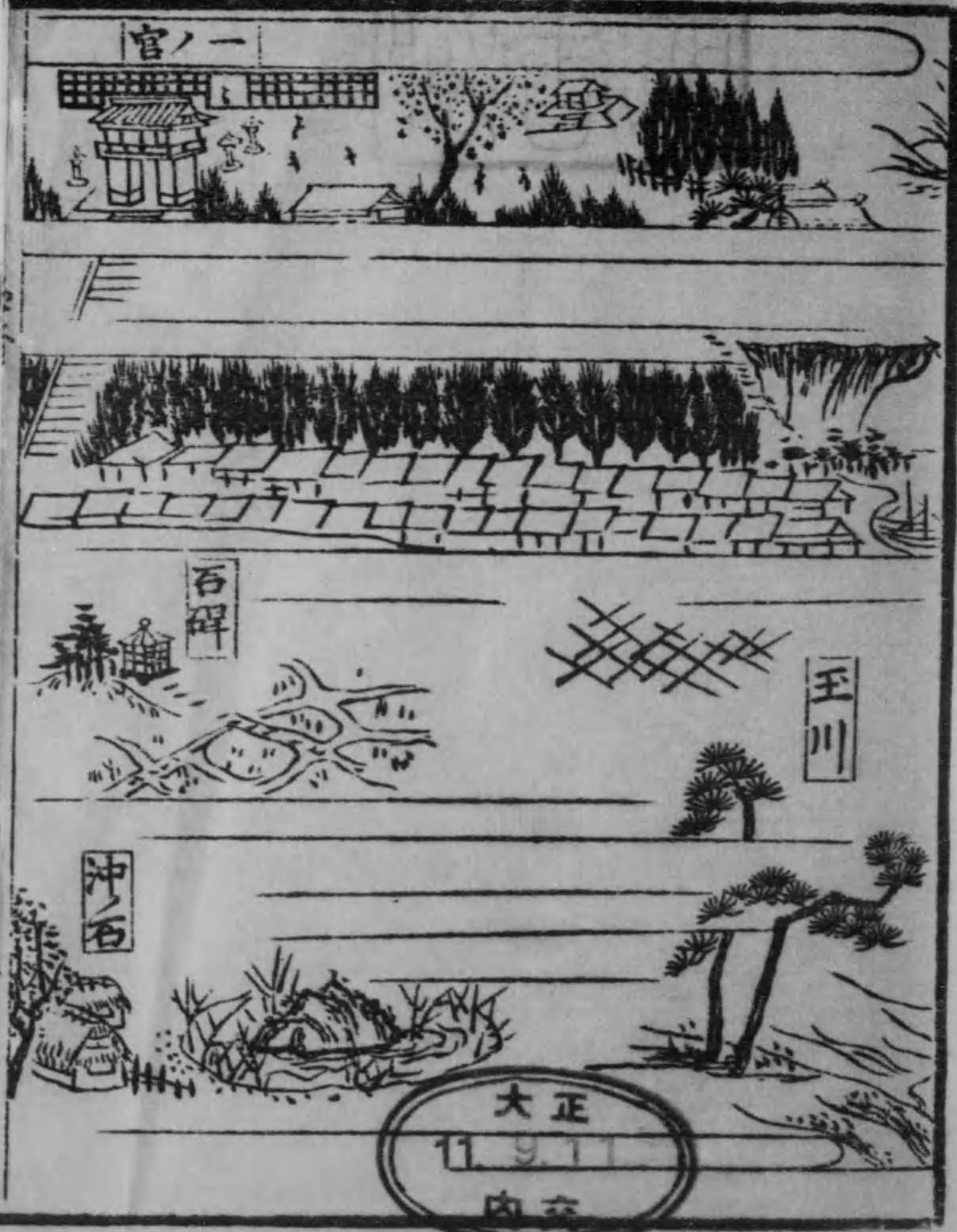
全

67
383

梅電齋

全

67-383





住谷

塩竈詣

け度思るるの塩釜
 以毛清の目とお宮の
 道筋も本下あつ流
 古秋中もはらふ公海
 七宮城野乃本の下處

隅田川
 往東

日弁中會
 隅田川道
 一途無断
 中回乃下度作
 幸地を履
 主の客の持
 本十の白

雨ふまきれついでに昔
 ろうく寂寞きくお地
 なり今も柳本は古株
 まうまふま城野と水
 つき眺むたる暖あめ
 老木のこころなまは

若狭の海
 舟の漕田
 川流なるは
 深き水なり
 待乳晴嵐
 舟の山
 舟の川
 舟の川
 舟の川

若狭の海
 舟の漕田
 川流なるは
 深き水なり
 待乳晴嵐
 舟の山
 舟の川
 舟の川
 舟の川

若狭の海
 舟の漕田
 川流なるは
 深き水なり
 待乳晴嵐
 舟の山
 舟の川
 舟の川
 舟の川

若狭の海
 舟の漕田
 川流なるは
 深き水なり
 待乳晴嵐
 舟の山
 舟の川
 舟の川
 舟の川

娘の月丸張
なうんを
昔の浦舟
が京のま風
とくぬれを
軽ん波妙
長江丘尾の
ゆきく種
開かのみ成

茶店とあふ月耕齋
東姑の江本庵淨沙の法と
うけぬて一寺とあふ水の
岳と茶と安とを
續き遊漢と台慈寺遊え
禅師の毎巻之比兵坂と

あやむひと
安徳へ下
が流るる
ゆ乳山
河を
河を
河を
河を
河を
河を

この今市あふるまふ
雷を松と山と松と山と
山東光寺と慈光大師の建
きたるもや石小真の細乃
茶師観音堂眼小切堂
洲岩切川此川と小冠川



くらとくたぐ
 橋とたき人
 の浸るる
 田次海軍
 北殿
 橋の
 まり山
 根の中堂

の神の又と花もかき
 西小十府の昔は海軍古歌
 鳥のはらけしりひまも
 水もかきり十府の昔は
 とんはあのお古歌あはは
 岩物橋の向途はの橋を渡り

富士山
 富士山
 富士山
 富士山

古く十府の昔は海軍古歌
 鳥のはらけしりひまも
 水もかきり十府の昔は
 とんはあのお古歌あはは
 岩物橋の向途はの橋を渡り

雷光なりき
 しのみま
 馳りま
 三戸川の
 民の家
 倉ふ
 けと
 苗代
 陸奥

津波の後作決たを
 家敷と愛み
 又橋の末に古松老杉森と
 中社と延喜式に
 社のなる志波たの社と
 しく南ま乃社壇橋大

三戸て面
 けの末
 無極
 の橋
 橋

明神は
 の社市川
 若文
 の碑
 天守
 朝橋

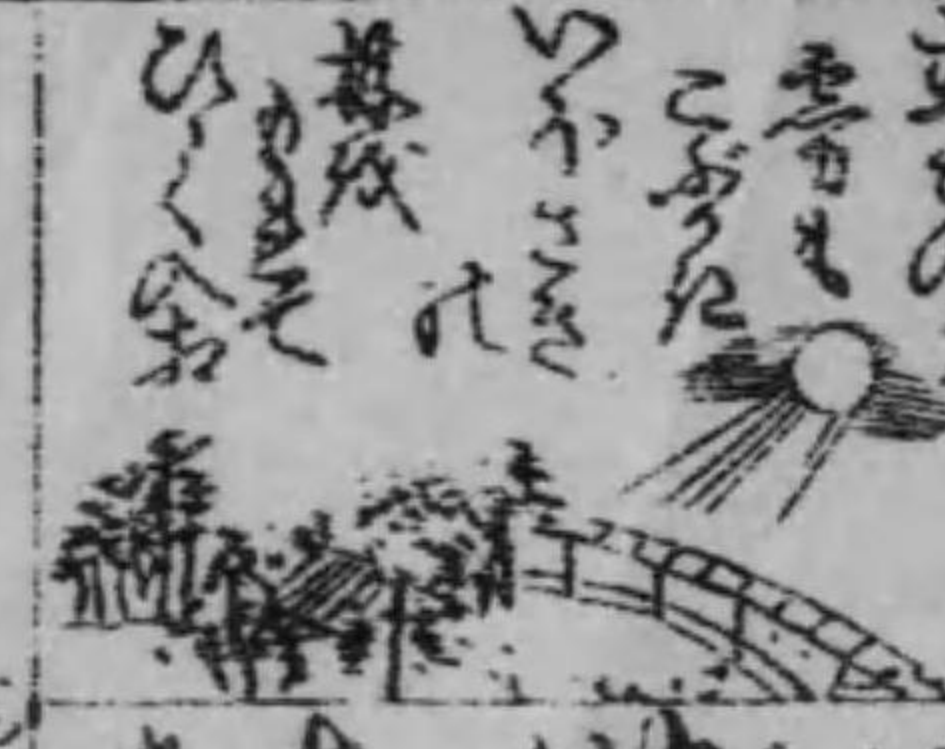


ともも義経様
 若狭初郡の
 老い田か女
 うらみまき生
 の量教条
 もきもあめり
 ひらひらと
 若狭の山
 若狭の山

の名も海の浦の
 三野の川
 りふまの松の沖の井
 ありきりきり
 刺の末松は宝園
 地起井の里の沖の井

若狭の海
 待作
 若狭の山
 若狭の山
 若狭の山
 若狭の山
 若狭の山
 若狭の山
 若狭の山

井中丸奇を
 大余力
 聖母の
 建立
 佛の
 村柏の神



尾島大乗堂
 依母と由文日
 舟とくハ鬼舟
 戸天波文日
 治く書書の
 慶美なる社
 橋真圓で
 これハ幸て
 此世ハ清浄

あまのつゝの河原城とて
 あまのつゝの河原の社産清
 ありおとて力流く大伏馬
 村あり垣壁の町ありあは
 押港真一宮垣公集の社
 神代の昔 彦火と貴き

寺より永代
 清い橋とて
 誓をせり
 江は打たはく
 因る橋原

の幸の厄を助あらむ
 後大和の國樞原の都
 般余美の命お救えまつ
 天下後世の縁とす一あ切
 ありて清く潔美とあま
 自深川垣焼て氏人合垣

淵ききつ海
 こち安房上
 徳をせし事
 の存を能く
 乃はな何れ
 の程をい
 影成深のい
 則ちこりひ

二教を命の民と矢の海と
 乃はな何れ
 の程をい
 影成深のい
 則ちこりひ

海人の小舟
 舟のほもく
 やむ向さ
 舟のほもく
 やむ向さ

海人の小舟
 舟のほもく
 やむ向さ
 舟のほもく
 やむ向さ

舟のほもく
 やむ向さ

富士山遠く
 海より森
 まさしく餘
 限か右に
 浅る瀬を
 人の世や若
 ぬと在る中
 水のひり
 今見ふう

あらじ叔塩谷と松崎と杖
 桑中すの美系中好七系
 せまけ地よりし人そさ
 多と忠像の源奉てうと
 清も又おほる中風光招我
 海山拍手今魂向奈河

名
 月
 墨川
 秋
 月
 名
 月
 名
 月

舟島烟波松島月引巻
 吉富樓那あれを唐山渡を
 湯清池さきみ海ら伝る矣
 藤清の眼若く海旗清く清
 平の清波風波引松崎
 映る海流を浪るに

徳威名重
 冠作裝束
 昨習作
 鞠作佛
 印繪作打
 目利書
 目利料
 研金全
 根在米
 大徳作法

下をたぐり流中を並ぶ
 物ほし通るも愛もあつても
 捨るとさう難治のたゝまら
 少治とまらじう一大神
 澤村女あまはね女あまら
 心のあつはふいあつはに神

陽跡分相脚
 秤金升月
 汗口持は金
 鳥留新衣
 屋仕之布衣
 洗濯屋法衣
 屋備髪屋
 石帯屋法衣
 翠巻師装
 安座時年除

下をたぐり流中を並ぶ
 物ほし通るも愛もあつても
 捨るとさう難治のたゝまら
 少治とまらじう一大神
 澤村女あまはね女あまら
 心のあつはふいあつはに神

吉乃昨展風
 在但眉
 他吹烟者
 液治琴
 昨鼓昨
 昨面打唐
 物金立工
 弓昨矢
 弦拍等他
 佛环平判

およ智の浦は清は
 云々なる釣を
 其の清は
 後山を満
 風来い
 物一南

在舟
 在具足
 在柄
 在律
 在律
 在律
 在律
 在律
 在律
 在律

延乃
 のまき
 清の
 其の
 其の
 其の
 其の
 其の
 其の
 其の

高道金屋
 派源人秋屋
 殿澤澤澤
 石切屋屋
 于菓子印
 本鏡屋
 常利金屋
 竹練坊屋
 岩屋板屋
 淨海非屋

以卿都六条河原土境
 上福之志教せられ友
 友金元の御方なり案内の
 花房親者地内お古御あり
 蒙古の城と海中と満ちて
 塔表の為ともは公年号ハ

汚神堂
 神田切米春
 車力る坊
 舟業終士
 派守風呂
 屋髪結押
 子辞表書
 本偶き津
 猫房奇舞
 妓曲表書

安永年とる里業津後の抱
 走化邦世分り奇なるを
 云是の垂と業内と出落
 体儀と油岩と病心結りて
 空々

文政八乙酉年春二月新刊成
 仙臺書林 裳華房 伊勢屋高板

67
383

大正十一年九月五日印刷
大正十一年九月八日發行
非賣品
宮城縣仙臺市定學寺通權丁栗齋
發行兼印刷者 二瓶松三郎
宮城縣仙臺市勾當臺通世八番地
發行所 仙臺叢書刊行會

終

